

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

7

2025 JUL.

第266号

学校長からのメッセージ

最近のニュースから、芸能界や放送業界における倫理観や価値観が問われる場面を見聞きすると、若い頃の苦い経験が思いだされます。およそ40年前、友人に誘われてテレビ局の人との飲み会に参加した時のことでした。ディレクターと呼ばれるその人は、既婚でありながら複数の女性関係を誇らしげに語っていました。私は思わず「そういうのは好きではありません」と言ってしまう、「誰や、こんなヤツを連れてきたのは！帰れ！」と怒鳴られました。

同じ頃、旅行会社に就職した同級生が、東南アジアでの「買春ツアー」なるものについて語ることがありました。当時YMCAでは、搾取される立場にある子どもたちを守るための学びを啓発していた時期でもあり、そのようなツアーが同級生から平然と語られる現実には愕然とし、YMCAの活動と現実とのあまりの乖離に、やりきれない思いを抱いたものです。

YMCAで働く私に対し、親友は「千文は“愛の人”だから」と言います。YMCAの活動自体がマイノリティ（少数派）で、世間の多数派の価値観と違うのかもしれませんが、でも苦しんでいる人に寄り添うYMCAのミッションを続けることで、たとえ少数派でも社会は少しずつ変わっていくと思います。

7月、大阪で「世界YMCA大会」が開催されます。アメリカ、カナダ、ヨーロッパだけでなく、アフリカや戦火の続くウクライナ、パレスチナからも参加があり、100名を超える人が一堂に会して、聖書の「すべての人がひとつとなるように」すなわち「すべての人が幸せになるように」という願いを共有し、推進することを再決意します。私は、そうしたYMCAの理念を、この学校でも実現していきたいと考えています。

最後に。冒頭のように、自身が空気を読まないところがあると自覚していましたが、若い時から「天然」以上に「KY」だったことを思い知らされ、自重しなければと反省しきりです。

(校長 鍛冶田 千文)

「すべての人を一つにしてください」ヨハネによる福音書：17章21節





今月の聖句

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」

(マタイによる福音書 4章:4節)

生きてると、怒りたくなることや、理不尽なこともありますよね。「なんでこんな悲しい思いをしなきゃいけないんだろう」と思わず叫びたくなるような時も。やりたいことができなかったり、なりたい自分になれなかったり…「こんなはずじゃなかったのに」と思うこともあるかもしれません。「奇跡でも起きない限り、辛い現実は変わらない」、そんな気持ちになることもあるでしょう。でも、奇跡は起きるのです。キリスト教では、奇跡は必ず起きると教えられています。

その奇跡とは、転生してチート能力を得たり、あしたには人気者になるような変化じゃなくて、おだやかに、時間をかけて育まれるもの。パンを作るみたいに、粉と水をこねて、発酵させて、じっくり焼き上げていく。

「人はパンだけでは生きるにはよらず、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」 マタイ 4:4

奇跡は、神から与えられる「一つ一つの言葉」の先にあります。神様は、日々の生活の中で、この瞬間瞬間に語りかけてくださっています。今、目の前にある「やるべきこと」。今、そばにいる「大切な人との時間」。

その一つひとつの積み重ねを、丁寧にこなしていく。そしてなにより、「今のこのわたしの気持ちと、この私に神さまが語りかけていることはなんだろうな」って考えてみる。その先に奇跡が起こっていくのです。奇跡は、日々の中にも小さく起きているのかもしれません。そんな一つ一つを味わいながら、この学院の時間を一緒に過ごしていきましょう。



「今月の聖句」 自己紹介文

池田 優希 (ゆき)

昨年度から YMCA 学院高等学校に勤務しています。
普段は八尾教会の牧師をしており、学校には水曜日に
来ています。
好きなことは、音楽。"体感するキリスト教"のスクー
リングを担当していて、
スクーリングは、生徒のみなさんと一緒に歌う楽しい
時間です。
後期、多くの方がこの科目を選択してくれることを楽
しみにしています！

